

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

1 実施日 平成30年 4月17日（火）

2 調査対象 第6学年児童 73名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語A、国語B 算数A、算数B、理科）

Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力）」に関する問題です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

4 調査結果

(1) 教科に関する調査

- 国語A（主として知識に関する問題）、国語B（主として活用に関する問題）はともに、おおむね全国平均と同程度でした。
- 算数A（主として知識に関する問題）おおむね全国平均と同程度で、算数B（主として活用に関する問題）は全国平均を上回る結果でした。
- 理科は、おおむね全国平均と同程度でした。

(2) 児童質問紙調査

成果が見られた項目

- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思いますか。

課題が見られた項目

- 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。

5 学力向上の取り組み

今回の調査結果では、算数Bが全国平均を上回りましたが、全体的におおむね全国平均と同程度であるとの結果でした。さらに力を伸ばすために、主体的に話し合い、学び合いを通じ、児童相互に啓発するような授業の展開による「よく考え、わかりやすく伝える子どもの育成」をめざし、本校では今後、次の2点について重点的に取り組んでいきます。

(1) 書く活動の充実を図る。

- ・自力解決の時間を確保するとともに、表現方法としての図、式、言葉、表、グラフなどを活用する力を身につけさせる。
- ・終末の時間を十分に確保し、ノート指導を工夫して、本時の学習のふり返りと学習内容のまとめを図る。

(2) 集団での練り上げの時間の工夫をする。

- ・ペア、グループ、全体など、各時間の内容に応じて話し合いの場を設定し、自分の考えを深める。
- ・児童の表現方法の数学的な価値を見取り、適切な価値づけを全体的に広げ話し合いの方向を見出す。

6 保護者・地域の皆様へ

児童の学習環境・生活環境づくりについて、次の点で家庭や地域の方々のご協力をお願いいたします。

○家庭学習について

- ・「家庭学習スタンダード」等を活用し、家庭学習の習慣化を図り、学年に応じた学習内容の充実と学習時間の確保に努める。

○読書について

- ・日常的な読書環境や読書に親しむ機会を工夫すると共に、家庭で読書する習慣作りをする。

○地域行事等への参加

- ・集団登校や地域の人との交流活動を通し、地域との結びつきを深め、いろいろな機会での地域の良さの発見と、多くの人とのふれあう機会を工夫する。